

長野県立歴史館たより

2005年 冬号 vol.45



特別公開

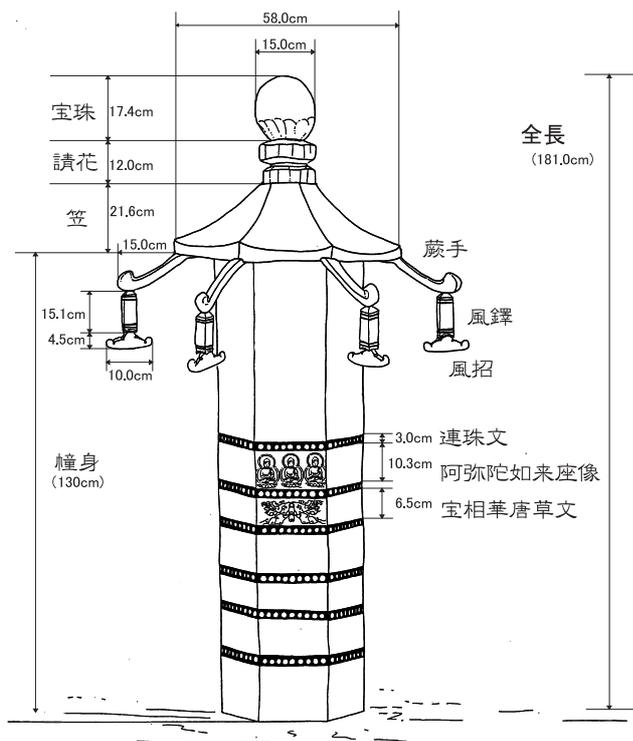
六角木幢（複製）

極楽浄土への道しるべ

平成一七年二月一九日(土)〜平成一八年一月一五日(日)

1 名前と構造

二〇〇一年（平成一三）六月、千曲市八幡の社宮司遺跡から、平安時代末期（一二世紀前半頃）の作と考えられる仏教塔が出土しました。その塔は、石幢とよばれる石造物に酷似し、木製であることから木幢（もくどう）と名づけられました。幢とは、お寺の須弥檀脇などにある



六角木幢の部分名称と寸法（縮尺1/50）

細長い布製の旗のことです。それを六面あるいは八面に組合わせ、立体的に表現した石造物が石幢です。日本では六角が圧倒的に多いため、六角幢の名称がついています。遺跡から出土した木幢も、六角柱に仕上げられていることから、六角木幢と呼ぶことになりました。現存する木幢は、今のところ他に例がないので、まさに日本で、ただひとつの遺品となります。幸運にも、今回の発見例は、

すべての部品の種類がそろっていました。宝珠・請花・笠・幢身で構成され、笠には蕨手、風鐸、風招といった飾り物がつきます。高さはおよそ一八〇cm余りと考えられます。

2 製作材と作り

六角木幢の製作材は、各部品それぞれに違うという特色があります。宝珠はクリ、笠はケンポナシ属、幢身はエノキ属、蕨手はヌルデ、風鐸はヒノキとモミ属、風招はヒノキとサワラです。風鐸と風招に二樹種が存在するのは、破損・

修繕による追加製作の結果と考えられます。多様な材質ですが、宝珠から幢身までの本体は、いずれも果実を食べることができ、建築材あるいは家具材として好まれる身近な落葉高木が選ばれています。これに対し、飾り物である風鐸や風招は、建築材として美しく最高級の常緑高木を用いています。作りは、宝珠と笠、幢身の本体が、粗い加工で仕上げられているのに対し、飾り物は丁寧な表面加工をほどこして完成されています。荒あらしさと繊細さ、うす茶色と白色の木肌効果、絶妙な製作バランスは、樹木の特色を生かす知恵と技を駆使しているともいえそうです。

3 仏画

幢身には、阿弥陀如来座像と考えられる仏像が描かれています。正面には、最上位に一体の大きな如来を、以下三体三段、九体の阿弥陀如来座像が描かれています。三段の如来像は、带状に巡る連珠文によって区画する構図をとり、それぞれの間に宝相華文と呼ばれる唐草文をほさんで描かれています。表面の腐食が激しく、残念ながら色彩があったのか不明です。六角の各面すべてに同様な図柄が配置されていたと考えられますが、本出土例で確認できたのは三面のみです。このように、阿弥陀如来を尊像とすることから、極楽往生を祈願した浄土教的色彩の強い仏教塔と考えられそうです。

（長野県埋蔵文化財センター 町田 勝則）

平成一七年度特別公開

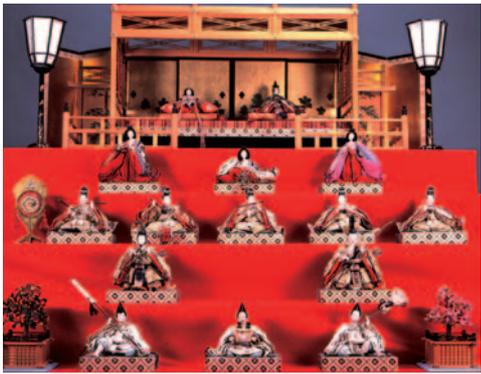
平成一八年二月二十八日(土)～三月五日(日)

雛人形と雛道具 く身だしなみとよそおい

歴史館恒例の雛人形展の季節がやって参りました。今回は「天下の糸平」田中平八ゆかりの華やかな雛段飾りや、安政年間の大ぶりの雛人形などを展示します。

糸平ゆかりの雛道具は、ぜいたく屋と呼ばれたミニチュア玩具専門店の江戸浅草「武蔵屋」の製品です。雛道具は雛祭りの流行とともに華美になりましたが、その雛道具のお手本となったものは大名家の婚礼調度でした。

いわゆる大名婚礼調度とは、江戸時代初期以降、大名や公家、裕福な人々の婚礼の際に整えられた調度のことです。貝桶かいづかに始まって、三柵さんさく（厨子柵ずしだな・黒柵くさく・書柵しよさく）などの家具類、化粧道具類や文房具類など、女性の生活に必要な調度類が豪華な蒔絵でしつらえられました。一般的に婚礼調



田中平八ゆかりの雛人形

度には所有者が亡くなる
と、形見分けなどで散逸してしまい、その全貌ははつきりしません。
今回は、角盥つのたらいや湯桶ゆづかなどの手水道具類や化粧道具類など、身だしなみを整えるために使用した調度を中心に展示します。また併せて、近世から近代にかけて女性が身につけた打掛・小袖類も展示し、雛人形にまつわる女性の暮らしぶりをご紹介します。



盥及び湯桶
(松代文化施設等管理事務所蔵)

体験講座

- ・折り紙講座 (要予約・参加料三〇〇円)
二月一日(土)・五日(土) 午後二時から
 - ・折り雛体験コーナー (予約不要・参加無料)
会期中の土・日曜日
午前一〇時から午後三時まで
 - ・おひなまつりと春のたのしいおはなし会
(予約不要・参加無料)
二月四日(土)・八日(土)・三月四日(土)
午前一時・午後二時
- ◎予約・お問い合わせは総合情報課
電話 〇二六・二七四・三九九一まで

● 収蔵資料紹介 ● 明治時代の「方言調査」

シンのウ (北佐久)、ゴシテエ (諏訪・北安曇)、テキナイ (南安曇・埴科)、コワイ (上水内) は、「疲れた」の方言。また、ズクナシはほぼ全県に分布。そんな明治時代の方言調査が残されています。

一八八六年(明治十九)、新設の県庁文書課は県史編さん事業を始めました。県史には、歴史のほか風俗や名勝・社寺・自然などを記述する計画で、各郡にその調査が命ぜられました。そのうち民俗分野の「方言調査」の報告は、一八九一年に提出されました。

調査は、地理・家屋・人品(性格)・身体(体の部分の名)などの項目でおこなうよう例が示されていました。しかし、自分たちの言葉がほかの地域と違っているという自覚と、ズクを出さねばできない調査ですから、方言の報告数には郡によってかなり差があります。



方言調査の報告文
(行政文書 明26 1-6)

県史編さんは一八九三年三月に中止されてしまいましたが、集めた資料を一冊にまとめて保存するよう県上層部が指示したため、貴重な資料が残されました。

しゃぐうじ ろっかくもくどう
社宮司遺跡出土の六角木幢

(宝珠・笠、飾り物) 平安時代末期

宝珠（請花含む）と笠を合体し、手前には蕨手と風鐸・風招を置く。幢身は腐食が激しく、合体はできない。10月に完成した現物レプリカで、全体をうかがうことができる。現物は、奈良文化財研究所で保存処理中、平成20年度完了予定。

■行事アルバム

【10月23日 秋季企画展 人形芝居公演】



今田人形座（飯田市龍江）による演目は、「寿式三番叟」と「傾城阿波の鳴門」で太夫の節回しに三味線の音が雰囲気を感じていただきました。公演後、人形遣いの方法も説明していただきました。

【10月30日 考古学講座遺跡探訪会】



「縄文文化」の源流を求め、千曲川上流の北相木村、川上村から山梨県の北杜市へ遺跡を訪ねてみました。（写真：川上村大深山遺跡）

【11月3日 森將軍塚まつり 歴史館たんけん隊】



まつり当日の入館は無料とし、たんけん隊を結成して、普段は入れない歴史館の収蔵庫や書庫などを見学しました。

■編集後記

歴史館ではこの1月から3月までの間に、三つの特別展や数多くの講座などを企画しています。

外は寒い冬、こんな時は暖かい歴史館で有意義な時間をすごしてみませんか。2006年が皆様にとって、よい年でありますように。

長野県立歴史館たより 冬号 vol.45
2005年(平成17)12月17日発行
編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代清水 科野の里歴史公園内
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail rekishikan@pref.nagano.jp
ホームページ http://www.npmh.net

INFORMATION
インフォメーション

■2006年

1月～3月の行事予定

1月

休館日
1(日)～3(火)
10(火)・16(月)
23(月)・30(月)

企画展

六角木幢
—極楽浄土への
道しるべ—
平成17年11/19(土)～
平成18年1/15(日)

講座

やさしい信濃の歴史講座
第3回 1/14(土)
【中世】川中島合戦の裏面

常設展示替え

近世の興行
工女の生活

特別公開

雛人形と雛道具
—身だしなみと
よそおい—
1/28(土)～3/5(日)

2月

休館日
6(月)・13(月)
20(月)・27(月)

▼折り紙講座

2/11(土)・25(土)

▼折り雛体験コーナー

会期中の土・日曜日

講座

やさしい信濃の歴史講座
第4回 2/4(土)
【近世】幕末の動乱と信濃

3月

休館日
6(月)・13(月)
20(月)・22(水)
27(月)

▼おひなまつりと春のたのしいおはなし会

2/4(土)・18(土)・3/4(土)

講座

やさしい信濃の歴史講座
第5回 3/4(土)
【近現代】20世紀の戦争と長野県

速報展

長野県の
遺跡発掘2005
3/18(土)～5/11(木)

映画会

親子映画会
3/21(火)・23(木)～26(日)

速報展「長野県の遺跡発掘2005」のご案内

期 間：3月18日(土)～5月11日(木)
遺跡報告会：4月9日(日) 聴講無料

平成17年度、長野県埋蔵文化財センターが調査した遺跡の出土品をまとめて展示します。主な遺跡は、飯田市竹佐中原遺跡（旧石器時代）、中野市千田遺跡・茅野市構井阿弥陀堂遺跡（縄文時代）、佐久市西一里塚遺跡・森平遺跡（弥生時代）、飯綱町表町遺跡（中世）、などです。また、竹佐中原遺跡に関連した県内の旧石器時代資料もあわせて展示する予定です。是非、この機会にご覧ください。



旧石器時代遺跡発掘調査のようす（竹佐中原遺跡）